日本精神衛生学会
MENTAL HEALTH NEWS LETTER

令和元年8月31日発行
第 109号
事務局　〒169-0051　東京都新宿区
西早稲田2-18-23スカイエスタ507
TEL/FAX　03-6457-3921
E-mail　n.s.e.g@d7.dion.ne.jp
http://www.seishineisei.gr.jp/

〈目　次〉

日本精神衛生学会第35回大会長挨拶……1
日本精神衛生学会第35回大会開催概要……2
緊急公開フォーラムに参加して……5

日本精神衛生学会第 35 回大会長挨拶

第 35 回大会長　西村　靖史(別府大学)

平成の時代を終え、令和という新しい時代のはじめの大会となる日本精神衛生学会第 35 回大会を、国際観光温泉文化都市である別府市において開催し、皆様をお迎えできますことを大変うれしく考えております。

平成という時代は経済再生や、地域創生などが具体的に動いていく中で、経済格差や地域格差といった格差の問題が大きな課題を生んできたように考えます。私たちの生活は学校教育により個人の価値観が形成され、能力的格差付けがなされる中で、かつて地方にあった地域で生きるという当たり前のことも現代の職業観においてはむしろ否定的とさえ受け止められるようになってきているようです。地域格差や能力格差は経済格差とも連動し、社会の中に不安や困難さを生み出しているように考えます。

2015 年、国連は持続可能な開発サミットを開催し、その成果文書として「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択されました。この Sustainable Development Goals（SGDs）は日本でも浸透してきています。国際的な課題は、そのまま地域の課題と直結するものでこのアジェンダにある目標は、そのまま地域社会における課題にも直結するものとして見えてきます。

第 35 回大会は、教育から社会への接続に目を向け、地域における精神衛生にかかわる支援にかかわる方々が職域を超えて、社会生活における精神の健康の促進と精神的困難を抱える人の日常生活や、近年遭遇する機会が増加する災害といった非日常的出来事にわたり、多様な人間がより生きやすい社会について考える大会としたいと考えています。

今回の大会のテーマを「メンタルヘルスから考える地域生活」とし、精神衛生活動の現場において直面する様々な課題、災害時の精神的支援などについて検討する機会として精神衛生にかかわる多くの皆様からのご参加をお待ちしております。

日本精神衛生学会第 35 回大会開催概要

大会テーマ：メンタルヘルスから考える地域生活

１．開催日時と場所

日程　2019 年 12 月 7 日（土）、8 日（日）
会場　別府大学（大分県別府市北石垣 82）

２．開催概要

（1）大会日程（未確定部分を含んでいます）

	メディアホール	33・34 番教室	
12 月 7 日			
9：00－10：00			受付（1 号館 1 F）
10：00－10：50	大会長講演		
11：00-12：00	一般演題Ａ（口演）	一般演題Ｂ（口演）	
12：00-13：00			理事会（31 番）
13：00-14：30	シンポジウム「精神衛生活動のエビデンスとは何か」	一般演題Ｃ（口演）	
14：40-16：10	シンポジウム「教育から社会への接続」（仮題）	MCRT 研修会 14：40-16：40	
18：00-20：00			大懇親会
12 月 8 日			
10：00-11：30	公開シンポジウム「共生社会のあり方を求めて」（仮題）	一般演題Ｄ（示説）	
11：30-12：30	総会		
13：30-15：30		「自殺対策ゲートキーパー研修の作り方」WS	
16:30 終了予定			

【シンポジウム】

精神衛生活動における エビデンスとは何か	共生社会の在り方を求めて	教育から 社会への接続
コーディネーター: 中野明徳(別府大学) 話題提供者: 「心理の立場から」 川崎　隆(別府大学) 「看護の立場から」 河野由里(京都光華女子大学) 「福祉の立場から」 大谷京子(日本福祉大学)	コーディネーター: 大嶋美登子(別府大学) 話題提供者: 「当事者＆福祉施設の立場から」 山下達夫(太陽の家) 「家族の立場から」 安部綾子(大分県てんかん協会) 「精神医療の立場から」 山本隆正(山本病院)	現在調整中

（２）参加登録について

【参加登録方法】
大会参加登録は WEB 申し込みページにて必要事項をご記入後、お申し込みください。
大会ホームページ　https://seishin35th.jimdofree.com/
問い合わせ先メールアドレス　nseg.meeting@gmail.com

【参加費用】

	学会正会員	非会員	学生・大学院生
事前申込	4,000 円	5,000 円	1,000 円
当日申込	5,000 円	6,000 円	2,000 円
懇親会	5,000 円		2,000 円

事前申込期間中（2019 年 11 月 17 日（日）まで）に Web 登録手続き完了を確認しましたら、事前申込の料金にて受け付けます。※学生／院生は、大学院博士後期課程、研究生も含まれます。

【振込先】
いずれかにお振り込みください。

ゆうちょ銀行
記号：17200
番号：25658511
加入者名：ニシムラ　ヤスフミ

ゆうちょ銀行
店名：七二八（ナナニハチ）
口座番号：2565851
加入者名：ニシムラ　ヤスフミ

（３）演題登録について

1. 発表資格：多くの会員の先生方からのエントリーをお願いします。

■責任発表者について
責任発表者になるためには、次の①～④の条件を満たす必要があります。
①大会参加・発表申込時点で、日本精神衛生学会の会員であること。現在、非会員の方は学会事務局にて会員手続きを至急行ってください。
②2018 年度までの年会費を納入していること。
③事前参加申し込み及び発表申し込みを令和元年 8 月 31 日（1 ヶ月ほど延長予定です）までに完了していること。
④発表論文集原稿を令和元年 10 月 31 日までに投稿していること。

■連名発表者
会員・非会員にかかわらず、誰でもなれます。

2. 発表申込
WEB 申込みにて、参加申し込みに加えて、演題名、発表キーワード、倫理配慮の有無、口演 or ポスターについて記載をしてください。

3. 発表論文集への掲載

大会ホームページ上の発表原稿テンプレートにて作成の上、nseg.meeting@gmail.com 宛に令和元年 10 月 31 日までに送信ください。メールで送信いただくとき、添付ファイルは基本的にワード形式、もしくは PDF 形式でお送りください。件名は、発表原稿（名前）（例：発表原稿（西村靖史））としてください。基本的に原稿をそのまま印刷会社にまわしてオフセット印刷します。

（4）アクセス・宿泊

【自動車利用の場合】

福岡・北九州方面から

・日出バイパス「日出インター」より約 20 分

・大分道へ合流後、大分自動車道「別府インター」より約 5 分

大分・宮崎方面から

・大分自動車道「別府インター」より約 5 分

【ＪＲ利用の場合（最寄駅は別府大学駅）】

・ＪＲ日豊本線別府大学駅より徒歩 10 分

【バス利用の場合】

ＪＲ日豊本線別府駅から（所要時間約 20 分）

・亀の井バス「別府大学経由鉄輪行」に乗車し、「別府大学前」で下車。

・亀の井バス「石垣経由国立別府病院行」に乗車後、「別府大学下」で下車し、徒歩 3 分。

・大分交通「石垣経由亀川駅行」に乗車後、「別府大学下」で下車し、徒歩 3 分。

天神、JR 博多駅、福岡空港から（所要時間約 2 時間半）

・高速バスとよのくに号に乗車後、「鉄輪口」で下車し、徒歩 10 分
　バス停に待機しているタクシーの利用がおすすめです。

【タクシー利用の場合】

ＪＲ日豊本線別府駅から約 12 分（料金 1,200 円程度）

【飛行機を利用の場合】

大分空港　大分空港→別府国際観光港前下車

　　大分駅前行ルート　別府国際観光港下車（約 50 分）

　　別府駅前行ルート　六勝園（41 分）バス停下車が便利ですが、2 時間に 1 本程度

　　別府方面行ルート　別府国際観光港下車　タクシーまたは路線バス

　　※別府国際観光港前からタクシーでは約 5 分（料金 800 円程度）

・大分空港からバスでお越しになる場合は、バス乗車時にタクシーを依頼すると降車時にバスの後ろにタクシーが待機しますので、便利です。

・別府国際観光港前からの路線バス利用は、亀の井バスに乗り換え、「別府大学経由鉄輪行」に乗車し、「別府大学前」下車となります。

【別府市内の宿泊】

別府市内のホテルは温泉宿とホテルなどがあり、多様な宿泊が選択できます。一般的なビジネス系の宿泊施設の多くは別府駅周辺に存在しますが、宿泊数には限界があるため早めの予約がおすすめです。

温泉旅館では鉄輪（かんなわ）温泉が別府大学より山側へ、1.5 ㎞（徒歩約 20 分）に位置し、最近は新しい宿泊施設もできています。

緊急公開フォーラムに参加して

前田桃子（横浜市瀬谷区児童家庭支援センター「うぃず」心理相談員）

令和元年 6 月 22 日、日本精神衛生学会・一般社団法人メンタルヘルス・ビューロー共催で、「ひきこもりが事件をもたらしたのか？」の緊急公開フォーラムが中央大学駿河台記念館で行われました。5 月 29 日に川崎市登戸で発生した、痛ましい事件から 1 か月以内の急な開催であったにも関わらず、73 名もの方が参加されました。この緊急公開フォーラムは、事件の犯人がひきこもり状態であったということが報じられ、世間のひきこもりに対する偏見と誤解が広がり始めていることを懸念されての試みだったそうです。

パネリストは、二神能基先生（ひきこもり支援ニュースタート事務局主宰）、池上正樹先生（ジャーナリスト）、高塚雄介先生（明星大学名誉教授・本学会理事）のお三方でした。二神先生は、ひきこもり支援の現場の視点から、現代家族に「家族力の低下」が起こっていることなどを話されていました。対して池上先生は、ジャーナリストの視点から、今回の事件の犯人が「ひきこもり傾向」との説明がされてから、ひきこもりが事件を起こしたかのようにメディアが報じていることなどを話されていました。高塚先生は、研究者としての視点から、現代社会の価値観の変化についていけない人がひきこもりには多い、ことなどを話されていました。その後の参加者からの質疑応答の時間では、ひきこもり経験者の方も含め、何名もの方からご意見ご質問がありました。質疑の最後には、ひきこもりに至ってしまう社会とは何なのだろう、そこを考えるのが一番大切、と締めくくりフォーラムが幕を閉じました。二神先生のお話にもありましたが、現代人が日々さらされる情報量はかなり多く、飽和状態になっているために、情報の一端を知るのが精一杯になっているように感じています。そのため、「ひきこもり」という 1 つのテーマについて、様々な立場の方が同じ場で議論を交わし考えを深めることのできた今回のフォーラムは、たいへん意義のあるものであったかと思います。

私は普段、虐待児のケア等を行っていますが、福祉の現場で子どもや若者と関わっていると、ケース終結の難しさを感じます。何を持って終結とするか、例えば一人暮らしをして仕事に就ければ良いとは言いきれないからです。高塚先生より、ひきこもり支援は就労支援ではないとのお話がありましたが、目に見える支援の形として進めやすいことも就労支援に結びつけられやすい理由の 1 つであると感じています。もちろん、本来ならば精神的なケアがまずは大切かと思いますが、現代の忙しない社会の中では、そちらを優先させようと思える余裕の無さも関係しているのではないでしょうか。現代の社会環境が人々にどのような心の影響を及ぼしているのかを考えつつ、一人でも多くの方がひきこもりへの正しい理解と支援の在り方を知ってもらえるよう、努力を重ねていきたいです。